

## ●受賞記

海中医学協会(UMS)年次総会  
第10回臨床高圧酸素療法学会

—UMS/HBO 合同1985年学術大会に、1985年度国際 Boerema 賞受賞者として招かれて—

和田 壽郎\*

1985年2月11日付で、第19回日本高気圧環境医学会総会で特別講演をされた Long Beach 記念病院の G.B.Hart 教授から、貴君が本年度の国際 Boerema 賞の受賞者に決定したので(ちなみにこれまでの受賞者は1980年 G.Smith, 1981年 D.Perkins, 1982年 A.Behnke, 1983年 J.Jacobson, 1984年 W.Brummelkamp), 6月11~14日の海中医学協会(UMS)年次総会と第10回臨床高圧酸素療法学会の合同大会に出席するようにとの航空便が届いた。

この賞は国際的スケールでこの分野に大きく貢献した者に与えられるとの事、何故私がそれに該当するのか分らぬままに名古屋大学の榊原欣作教授に相談したところ、おめでたい事ゆえ是非日本の為にも行つて来て欲しいとの事、折角予定していたギリシャ・アテネ市での国際脈管学会を教室の者に代行してもらふ事にして承諾の返事をした。受賞式は6月13日木曜日の午後6時からの祝賀会で行われ20~30分の受賞記念講演を行って欲しいとの事、ところが以前から6月12日土曜日に二組の結婚式で媒酌人を引き受けており困り果ててこの旨伝えたところ、兎にも角にも出席して欲しいと言う事で一日はやく6月9日(日曜日)にロスアンジェルス入りをした。

Prof.P.Terasaki の下に居る札幌時代の教え子 Y.Iwaki 教授に迎えられ、shower を取ったあと、もう一人の教え子で開業している光岡博士と共に

昼食を楽しんでから Long Beach の Hyatt Regency Hotel に入る。前全米医師会会長であり又国際外科学会前会長の Dr.M.C.Todd 夫妻が待ち構えていて美しい Virginia Country Club で夕食を取る。学会では小生の受賞講演を開会式の時に行うように変更してくれたとの事で、日本から梨本教授、松田、大岩博士らの姿が見える。UMS のニューズレターは数日前に決まったばかりの明年9月の海中医学協会の国際シンポジウムの神戸ポートピア開催をトップ記事で報道している。

開会式の宣言の後、私の紹介が会長 Hart 教授によって行われ、記念講演を始めた。1954年、開心術の安全化に高圧酸素を用いる事を考え北大有江教授(現学長)の協力で一人用チャンバーを作成、北炭夕張鉱の爆発、続いて九州山野鉱の爆発に全日空で一人用チャンバーを空輸して災害救急に活躍、その経験から portable collapsible の chamber を藤倉航装の協力で完成、又文部省科研費での大型 chamber の完成、それらの経験を背景に、16年前、札幌で行われた第4回国際高気圧環境医学会議の思い出を slide で示した後、高圧酸素療法は CO 中毒の他、外科治療の対象とならぬ虚血性心疾患、広範火傷、人工弁移植後の中枢神経系塞栓症などに有効な事、collapsible chamber の空輸による大災害での有用性を述べた後、日本高気圧環境医学会の活動状況を榊原欣作教授より提供された資料で説明し、1985年11月、第20回の総会を沖縄で開催する事になっている事などを報告して講演を終った。

多くの拍手の中に賞状が授与され緊張した時間が夢のように過ぎた。このような栄光の背後に日本高気圧環境医学会会員各位の強い支持を思い誠

\*東京女子医科大学第一外科主任教授

札幌医科大学名誉教授

第4回日本高気圧環境医学会会長・同学会名誉会員

第4回国際高気圧環境医学会会長

に嬉しく茲に厚く感謝の意を表します。

Long Beach の学会は約450人の参会で、第1日目には1984—85年の UMS の会長 P.G.Linaweaver 司会の下 Dysbarism の演題 6、ポスターセッション12題、1967—68年の UMS 会長 Dr.C.J. Lambertsen の司会の下 Gas-physiology の演題 6題、1981—82年の UMS 会長 E.P.Kindwall の司会の下に HBO の基礎について 6題、1977—78年の UMS 会長 J.Vorosarti の司会の下に Gas-mechanic について 4題、1978—79年の UMS の会長 H.A.Saltzman の司会の下に Hyperbaric-multiple-sclerosis について 4題の発表があり第1日目を終了した。

午後6時より約2時間、展示の人々を含めて盛大な Party が開かれ、窓越しの Yacht Harbor, Queen Mary 号の夜景を楽しみながらベッドに入る。第2日目は1983—84年の UMS 会長 A.A. Bove の下 Current decompression problems of sport diving について 6題、D.A.Greenberg 司会の下 Associate program, High pressure environment のポスターセッションが11題、T.Sellers 司会の下 Associate program の Nursing and respiratory therapy workshops が 6題、午後には 1982—83年 UMS 会長 J.M.Hallenback 司会の下に Effects of pressure について 6題、1969—70年 UMS 会長 E.L.Beckman の司会の下 Diving pressure effects について 4題、又 Associate program として D.J.Dale 司会の下 2題、又 J.T. Joiner の司会で更に 1題が行われ第2日目が終了した。

毎朝10時頃までは曇りで涼しく、お昼頃には快

晴となる天候で誠に学会向きであり、第3日目は 1979—80年 UMS 会長 J.C.Davis 司会の下高圧酸素中毒について 7題、HBO 治療についてのポスターセッションで午前を終了、正午に総会、午後には 1975—76年 UMS 会長 P.B.Bennet の司会の下 Diving: Effect of pressure について 6題、Sickness effects について 6題、小生と P.S.Sheffield で HBO の臨床応用、続いて 1976—77年 UMS 会長 A.J.Bachrach の下 Decompression sickness effects について 4題、又 1984—85年 UMS の committee の R.A.M.Myers の司会で HBO の臨床について 3題が論じられた。この日の午後6時半から受賞者表彰式と講演が予定されていたが、小生の受賞と講演は都合により開会式に予定変更となったことは、前記のとおりである。

最終日の6月14日(金)は UMS 1980—81年度会長 P.Webb の司会の下 4題、1985—86年 UMS 会長 M.E.Bradley の下 Suzanne Kronheim Memorial Lecture がカリフォルニア州大生理学 B.Whipp 教授によって行われ、続いて11時から1時間 UMS の Great Lakes, Gulf Coast, North Pacific, Rocky Mountain 夫々支部会の活動報告で4日間に亘る学会の終了となった。尚、本学会の日本人会員は約36名で内約20名が今回出席した。

ひるがえって我が国の保険点数が米国のその約1/4にしかならない事もあり、この分野の沈滞が、1986年、神戸での国際会議を契機として一時流行的でない HBO の確立された適応に対する臨床的応用の再復活を強く期待したいものである。